

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和4年度 技術情報第7号（普通期水稻のトビイロウンカ）について（送付）

8月15日～19日の調査で、一部の普通期水稻ほ場において増殖率が非常に高い短翅型雌成虫の発生を確認しました。ほ場内での発生動向に十分注意し、本情報を基に適切な防除対策を行ってください。



なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（[www.jpnpn.ne.jp/kagoshima](http://www.jpnpn.ne.jp/kagoshima)）にも掲載しています。

## 令和4年度 技術情報第7号

1 対象病害虫 トビイロウンカ

2 対象作物 普通期水稻

### 3 発生状況等

8月15日～19日に行った調査（28地点56ほ場）で、発生面積率は5%（平年53%）と低く、発生程度も少発生であったが、増殖率が非常に高い短翅型雌成虫の発生を確認した（図1，表1）。

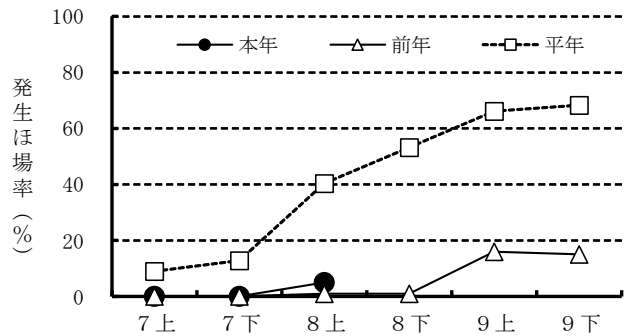


図1 トビイロウンカの発生ほ場率(普通期水稻)

### 4 防除対策及び防除上注意すべき事項

- (1) 飼料用稲などの育苗箱施用剤を使用していない水田，あるいはウンカ類に効果が高いトリフルメゾピリム剤以外の育苗箱施用剤を用いた水田では，生息密度が急激に高まる恐れがあるので注意する。
- (2) 防除適期は7月10日の飛来に由来する第2世代幼虫が8月24～8月31日，6月20日と25日の飛来に由来する第3世代幼虫が9月7～11日と予想される（図2）。
- (3) 9月以降に出穂期を迎える中～晩生品種では図3を参考に薬剤を選定し，効果的な防除に努める。
- (4) 稲の株元に生息しているので，粉剤や液剤で防除する場合は，薬剤が株元に十分届くよう散布する。
- (5) 発生状況は地域やほ場によって差があり，同一ほ場内であっても生息分布にはムラがあるので，防除にあたってはほ場全体の発生状況を必ず確認する。また，ほ場では各虫態が混在しているので，防除を実施した後も，その後の発生に十分注意する。

## 5 調査結果

表1 トビイロウンカの発生状況（8月15日～19日調査）

地域 <sup>注1)</sup>	調査地点	程度別発生ほ場数 <sup>注2)</sup>					発生面積率(%) <sup>注3)</sup>		備考
		甚	多	中	少	無	本年	平年 <sup>注4)</sup>	
南薩	5	0	0	0	0	10	0	55	
北薩平坦	12	0	0	0	0	24	0	48	
北薩山間	11	0	0	0	3	19	14	53	2ほ場で短翅型雌成虫を確認
大隅	—	—	—	—	—	—	—	65	(8月4日調査時に、1ほ場で短翅型雌成虫を確認)
県全体	28	0	0	0	3	53	5	53	

注1) 地域別の調査地点は下記のとおり。なお、1地点につき2ほ場を調査した。 注2) 発生程度基準は下記のとおり。

南薩：知覧、川辺、いちき串木野、伊集院他1地点

北薩平坦：鹿児島、蒲生、始良、隼人、国分、薩摩川内他6地点

北薩山間：宮之城、鶴田、さつま、菱刈、大口、湧水他5地点

大隅：大隅、末吉、鹿屋

甚：虫見板による株当たり払い落とし虫数が51以上

多：” ” ” ” 21～50

中：” ” ” ” 6～20

少：” ” ” ” 1～5

無：” ” ” ” 0

注3) 県全体の発生面積率は、地域の栽培面積を勘案して算出した。

注4) 平年は、平成24年～令和3年までの10年間の平均。

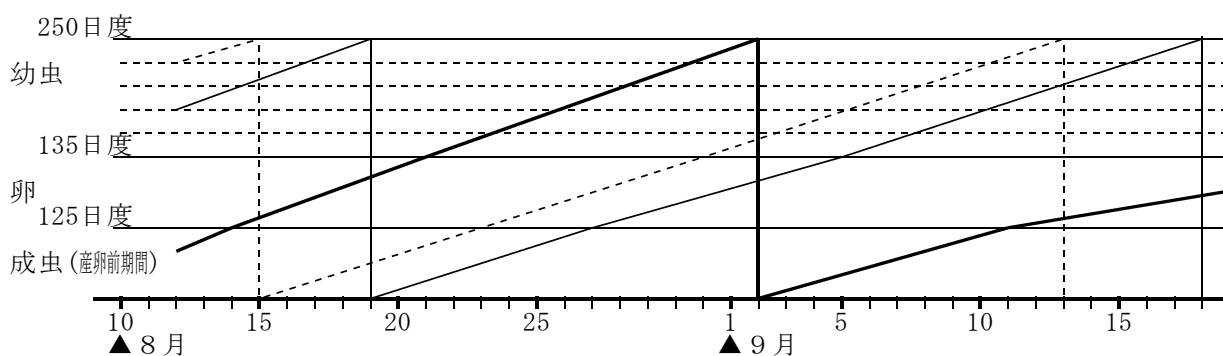


図2 トビイロウンカの有効積算温度による発生経過予測図

注) 気温は、加世田のアメダスポイントデータを利用した(8/21まで実測値、8/22から平年値)。なお、気温の低い地域では予測より2～4日程度遅くなる。

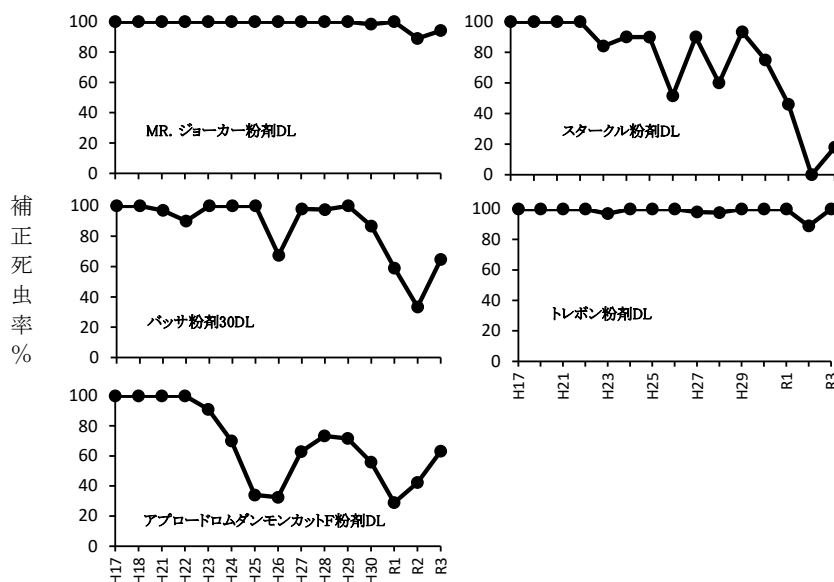


図3 トビイロウンカの薬剤感受性の年次変動

注) アブロードロムダンモンカットF粉剤DLは薬剤処理96時間後の幼虫の補正死亡率、その他の農薬は24時間後の雌成虫の補正死亡率を示す。



参考 トビイロウンカ短翅型雌成虫